

# 限界まで自分を追い込んで精一杯やりたい

最近のチームとご自身の調子はいかがですか。

チームは、ちよつと勝ったり勝てなかったりという試合が続いてるんですけど、ラモスさんが来たことが一つのきっかけになったと思います。選手が戦える環境を作り出してくれたことは大きいです。戦う姿勢に関しては見てる人に伝わったと思うので、ラモスさんが来てから1勝1敗ですけど、選手の中でも意識が変わりつつあるので勝ち負けほどそんなに気にしてないですね。自分の調子は1回落ち込んだ時もあったんですが、最近ここに来てまた徐々に良くなってきて、今充実してる日々です。

落ち込んだ時期というのはいつ頃ですか。

ホット6(7月の6試合)の時は良かったんですが、それ終わって1回中断入って再開した時にちよつとコンディションが上がらないというか、夏の疲れがもろにきてて。思うように動けなかったり、ミスが多くなってしまっただけで、自分の思い通りにならないことがあったんですけど、最近は徐々に良くなってきてます。

調子が良くなってきた要因はご自身ではどこにあると思いますか。

名古屋戦0-4で負けた試合があったんですけど、その後に自分でゆっくりに考える時間があった。そこで考え直して、自分が今プレー出来るのは色々な人のおかげだし、その人たちの為にも頑張らなくちゃいけない。まあ、大学時代に培った秋田監督から教えてもらった部分をまたそこで思い返すことが出来て、サポーターの人たちの為にも、自分を支えてくれた人たちの為にも。こういう環境になると見えなくなってくる部分もあって、選手はちよつと勘違いとかする部分も出てきちゃうと思うんですけど、そこをもう一回初心に帰って一からやろうと思う。名古屋戦の敗戦は忘れてもう

一回頑張ろうという気持ちになって、それがきっかけになったかなって思います。

プロになることがずっと夢だったと思うのですが、実際にプロになってみていかがでしたか。

全ての面においてサッカーの出来る環境が整っていて、大学は勉強とかもしなきゃいけないし、そういう面でプロはサッカーで全て評価される。それを仕事にするのは最初の頃は幸せなことだと思っただし、いいことだなんて思っただんですけど、サッカーでやるのは大変な面も見えてきて、でもまあ、こうして自分の好きなサッカーをして生活が出来るのは本当に幸せなことだと思います。

入団前は、柏はブラジル色が強く緊くサッカーがイメージとおっしゃっていましたが、実際に入ってみて違う部分はありましたか。

ブラジル人を中心に構成するというのは大学時代から思ってた通りだったんですけど、チームの方向性、どういう風にやるのかが、チームとして完全に出来上がってない部分を感じました。夏頃からカウンターサッカーという方向がはっきりして、そこからチー

ムも上手くいってききました。最初は緊くサッカーかなって思ってたんですけど、それが逆に上手くいかなくて。イメージは思った通りだったんですけど、チームが上手くいってなかったのを感じました。

デビュー戦(リーグデビュー)1第4節対清水エスパルスの印象はどんなものでしたか。

不思議なほど緊張しなかったのが印象に残ってます。10分くらいだったんですけど楽しく出来ました。サテライトで大宮と対戦時の方が凄く緊張しました。

大学とJ1との違いはどんなところですか。

クラブハウスの環境も練習出来る施設も、関心を持ってる人たちの違いも大きい。何よりプレミアのレベルの差は大学とプロとはあると思います。ちよつとの差だとは思ってんですけど、そういうのを感じますね。先程もおっしゃっていましたが、サッカーを仕事にするという面で戸惑いなどはなかったですか。いつクビになるか分からないし、クビになったら何も残ってないしこの先どうしようって思う時もあります。で

も、それを考えてたらこの仕事は務まらない。限界まで自分を追い込んで頑張る。そこでクビになっちゃったら仕様がなれないと思います。そしたらたぶん納得できるし。ただ、中途半端には終わらせたくないんで精一杯やりたいです。

この環境には入ってすぐに慣れましたか。

なかなか慣れませんでした。大学の時はずっと実家から通っていたので、全ての面において家族に助けられて、それで今一人で生活してやるようになったので、そういう面は最初戸惑いはありましたね。

では、そういうことから家族の大切さを実感しましたか。

そうですね。会わなくなると親も淋しいと言っていたので、オフの時は家族に顔を見せるようにしています。うちが2人共こういう世界でやっていて、兄(慶行・東京V)がなかなか家に帰らないので僕の方はなるべく実家に顔を

# 柏レイソル・DF 小林亮

昨年まで駒大の中心選手として活躍した小林亮は今年J1の柏レイソルに入団した。既にJデビューを果たし最近ではコンスタントに試合出場を果たしている小林。そんな彼の素顔に迫る！！

取材・文 伊藤優香、川崎篤彦  
写真 野澤俊介